

没食子

地中海沿岸を中心に自生する、カシ、コナラ、アベマキ等に似た高木の葉の新芽にインクフシバチ（没食子蜂；画の左下）が寄生して産卵し、虫こぶを作ったものが没食子と呼ばれるものでタンニン原料となります。画の中でボール状の虫癭（ちゅうえい）がそれです。没食子にはタンニンが50～70%も含まれています。没食子のタンニンはグルコースの水酸基に没食子酸が結合したもので、**アルブミンと結合させたタンニン酸アルブミン**や生薬の**オウバク（黄檗）**から単離したベルベリンと結合した**タンニン酸ベルベリン**等の製剤がつくられています。何れも下痢止めとして服用します。特にタンニン酸ベルベリンは腸内でタンニンとベルベリンが遊離して、ベルベリンにより腸内細菌による異常発酵を治す作用を持っています。また、インクの原料や染色としても用いられます。

本画の作者や製作年代は不詳ですが学名は *Quercus infectoria* と読み取れます。ラテン語の *Quercus* は良質の木、*infectoria* は染色の意味で、染色に用いられていたことが窺えます。英語の infection（感染）とも関係があるのかも知れません。

